

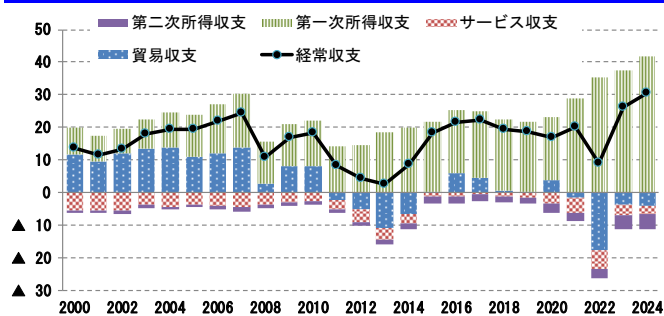
日本経済：国際収支（1～3 月期） 旅行収支黒字がデジタル赤字を上回る

経常収支は 2024 年度に過去最大の黒字を計上も、直近 1～3 月期は黒字が縮小。海外投資収益である「第一次所得収支」の黒字拡大を、貿易（財）・サービス収支の赤字拡大が上回った格好。もともと、サービス収支赤字のうち「デジタル赤字」の拡大ペースが鈍化することで、旅行収支黒字が拡大。サービス赤字は縮小方向。

2024 年度の経常収支は過去最大の黒字だが、直近 2025 年 1～3 月期は黒字が縮小

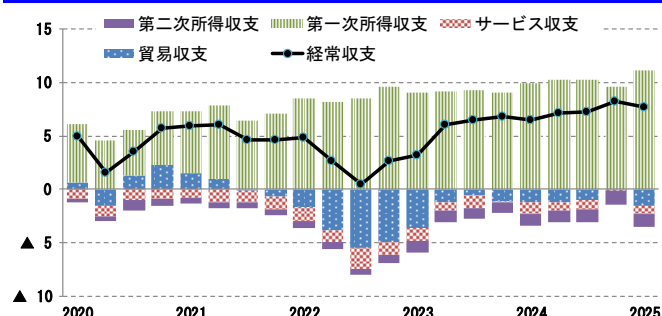
2024 年度の経常収支黒字は 30.4 兆円となり、比較可能な 1985 年度以降で最大の黒字幅を記録した（下左図）。海外からの利子・配当等である「第一次所得収支」の黒字拡大（2023 年度 37.3 兆円→2024 年度 41.7 兆円）が、経常収支黒字の拡大に大きく寄与した。一方、四半期ベース（季節調整値）をみると、直近 2025 年 1～3 月期は「第一次所得収支」の黒字が拡大したものの（2004 年 10～12 月期 9.6 兆円→1～3 月期 11.2 兆円）、貿易（財）収支（▲0.02 兆円→▲2.3 兆円）およびサービス収支（▲0.1 兆円→▲0.8 兆円）がともに赤字幅を上げたことから、経常収支黒字（8.2 兆円→7.7 兆円）は縮小に転じた（下右図）。

経常収支の推移（年度、兆円）



（出所）日本銀行

経常収支の推移（四半期、兆円）

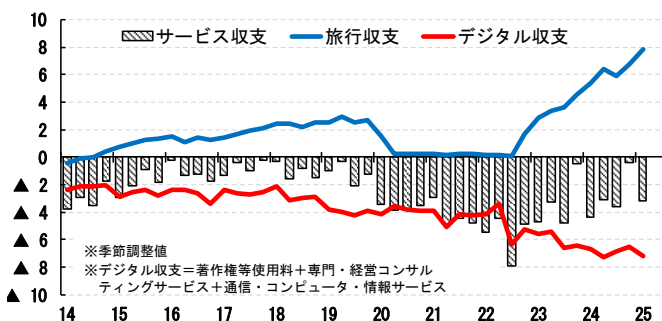


（出所）日本銀行

旅行収支の黒字幅がデジタル赤字を上回る

貿易収支の赤字拡大については、輸入額の大幅増加が響いた格好である¹。一方、サービス収支に関しては、海外から購入するデジタルサービスへの支払いの増加に伴う、いわゆる「デジタル赤字」（著作権等使用料、専門・経営コンサルティングサービス、通信・コンピュータ・情報サービスの各赤字額の合計）が拡大したものの、拡大ペースは鈍化している。こうした中、訪日外国人観光客の増加に伴う旅行収支黒字の拡大が続いており、1～3 月期は旅行収支の黒字幅（7.9 兆円、季節調整値）がデジタル収支の赤字幅（▲7.2 兆円、当社季節調整値）を上回った（右図）。サービス収支赤字は縮小傾向を辿りつつある。

サービス収支、旅行収支、デジタル収支の推移（年率・兆円）



（出所）日本銀行

¹ 1～3 月期は一般機械や化学製品の輸入が増加。2025 年 4 月 30 日付 Economic Monitor 「日本 1～3 月期 1 次 QE 予想：個人消費の停滞続き低成長にとどまる見込み（前期比年率+0.5%）」参照。 <https://www.itochu-research.com/ja/report/2025/2856/>

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、株式会社伊藤忠総研が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。記載内容は、伊藤忠総研ないしはその関連会社の投資方針と整合的であるとは限りません。